



国際文化科、総合科学科の生徒 5 名がボルネオ研修に行ってきました。8 月 15 日～21 日の日程中、ボルネオ島の多様な生態系と、それを壊さずに開発を進める様々な取り組みについて、研究を深めました。また、現地の高校生と「持続可能な開発」について、意見交換を行いました。



8 月 15 日(月) マレーシア・クアラルンプールに到着！



現地高校での発表準備

関西空港から直行便でクアラルンプールへ。予定より 30 分早く、約 6 時間のフライトで到着しました。

この日は、翌日の高校での発表を控え、遅くまで英語での発表の練習をしていました。サラヤ(株)の調査員、中西さんによる事前研修を踏まえ、2 班に分かれた発表は、どちらもパームオイル・プランテーションについてです。



[ホテルロビーの一角にて]



8 月 16 日(火) クアラルンプールの高校生との交流会



現地高校生と合同発表会

朝 6 時過ぎにホテルを出発し、クアラルンプールの公立高校 SMK Taman Setiawangsa 校へ。

全校集会で泉北の生徒が紹介されたあと、最初の授業で環境問題に関する発表を行いました。

現地の高校生は、容器ゴミの Reduce について素晴らしい発表をしてくれました。調べるだけに留まらず、約 2 週間、学校にて、マイボトルの普及運動をしたそうです。

泉北生は、現地生徒の流暢な英語に圧倒され、かなり緊張していましたが、「環境」と「発展」の両立について、しっかり発表できました。

発表後、マレーシアの輸出額の約 5%を占めるパーム油農園の在り方について、現地高校生から多くの質問が、挙がりました。



[ゴミ問題について発表する高校生]



[約 30 名の前で発表する泉北生]



現地高校生と語り合う

Satiawangsa 校は 7 : 30 ~ 13 : 00 までが授業時間です。この日は、合同発表の後、「環境」の授業、高校生による「麻薬・飲酒・喫煙」の撲滅運動の紹介、昼食交流と丸々一日交流させて頂き、マレーシアの高校生の真摯に勉学に励む姿に、とても刺激を受けました。



[「環境」についての授業の様子]



[Satiawangsa 校の先生方と]



[現地高校生と]



8月17日(水) ボルネオ島 ムレット族の集落へ



[受け入れて頂いた家族の方々と]



少数民族の家へホームステイ

3日目は、ボルネオ島、モンゴル・バル村にて、JICA 青年海外協力隊の渡会氏と共に、ホームステイ交流を行いました。

モンゴル・バル村は、政府が森林の伐採や、猟銃の使用を禁じる国立公園の中にある集落です。保護地域への指定当初は、生活の糧を奪われた住民と政府の間で対立がおきたようですが、間に入って、森林の伐採によらない現金獲得の方法を開発してきたのが、この地での JICA の活動です。

この日は、青年海外協力隊員の渡会氏より、ムレット族の歴史や言語、習慣を教えてくださいました。この集落の近くの都市で建設作業員をしても、日当は 14 リンギット (400 円弱) 程度。自給自足で生活を賄うことはできますが、貴重な現金収入の手段となる、ゴムや油やし農園の開発が禁じられている事が如何に大変な事が、教えてくださいました。



[夕食の様子]



8月18日(木) モンゴル・バル村にて手工業体験



竹細工体験

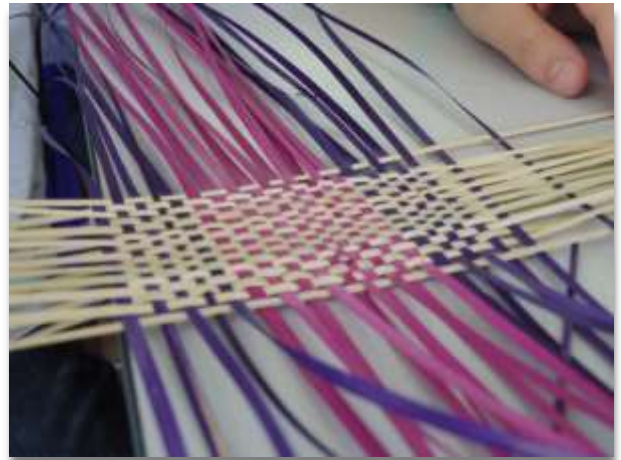
この日は、竹の皮を編み、籠や雑貨をつくる工程を体験しました。

現在、モンゴル・バル村の貴重な現金収入を支えているのが、ホームステイと竹細工製品の生産です。青年海外協力隊、渡会氏の指導のもと、今では製品を定期的に仕入れてくれるお店も獲得し、うまく軌道に乗り始めているようです。

もともと、血縁関係にある家以外とは交流しないムルット族の集落において、住民の信頼を得、ホームステイや竹細工を提案し実現した渡会氏のお話もゆっくり聞かせていただきました。どんな事でも良いから「コミュニケーションをとり続ける事」が何より大事だそうです。渡会氏自身、赴任当初の1か月間、毎日土産を持って家々を渡り歩き、会話をし続けたそうです。



[竹の皮を削ぐ工程]



[染色した竹の薄皮を編んでいく]



[吹き矢体験の様子]



吹き矢体験

国立公園内に立地するこの集落では、猟銃による狩猟が禁じられています。その為、今でも毒を塗った吹き矢による鹿や猪の猟が行われています（滞在中も鹿肉、猪肉をたくさんいただきました）。

オリンピック中という事もあり、冬瓜を的に、現地の方と競いましたが、最も上手なのは青年海外協力隊の渡会氏でした。



ゴムの採取

ゴムの採取は、ボルネオに暮らす多くのマレーシア人にとって、貴重な現金収入となっています。この村では、新たな農園の開発は規制されていますが、既にあるゴム園にて、採取の体験をさせて頂きました。

家の裏には、ゴムの他、ランブータンやマンゴスチンなど様々な植物でいっぱいでした。



[ゴム採取の様子]



8月19日(金) マレーシアの環境への取り組みと豊かな生態系を学ぶ



[現地 NGO「Clear」活動報告]



[タカクラ式コンポストの説明]



現地 NGO の取組を視察

この日の午前中は、コタキナバル近郊のピナンパン村で、河川と土壌の汚染防止に取り組む NGO「Clear」の活動を見学しました。

Clear では水質を改善するバクテリアによる、周辺河川の浄化を行っており、その意義や経過について講義を受けました。

また「タカクラ式コンポスト」により有機肥料をつくり、周辺住民に広めています。熱帯に属するボルネオ島では、激しい雨が土中の化学肥料を洗い流してしまい、土壌河川の汚染を引き起こしています。有機肥料は化学肥料に比べ、土中からの流出が少なく、環境への影響も小さいそうです。

また、食べ残しと培養したバクテリアで生産が可能なので、化学肥料を購入するより経済的なメリットも大きいようです。更に、年中高温なこの地では、食べ物の分解も早く、コンポストによる肥料の生産は、この地に適しているようです。



BCT ジャパンの取組

午後は、日本の NPO「ボルネオ保全トラスト・ジャパン」の岸さんと、パダンタラタック村の湿地帯へ。今回、行けなかったマレーシア東部の熱帯雨林（現在外務省より渡航中止勧告が出されている）の開発が、そこに暮らすオランウータンや、象に、どのような影響を与えているか、お話しいただきました。

その後、ボートにてリバーサファリ。野生のテングザルとホタルを見ることができました。ホタルは日本のものと全く違う光りかたをしており、幻想的なクルーズになりました。

川の上からも、ところどころパーム・オイルの農園が見られました。パームは、大豆や菜種に比べ単位面積当たりの収量も多く、収穫しやすい為、現在ボルネオの多くの農家の経済事情を支えています。パームそのものが悪いのではなく、開発の仕方に大きな問題があるようです。



[BCT ジャパンの岸さん(手前右)]



[リバークルーズの様子]



8月20日(土) 研修最終日。動物保護の現状を知る



[ホテル裏の農園]



宿泊ホテルの環境保護活動

私たちがボルネオの環境問題について研修に来た、と聞きつけた宿泊先の「パレスホテル」のマネージャーより、急きょホテルの環境への取組について、研修して頂きました。このホテルでは、食べ残しを有機肥料にし、さらにその肥料で、レストラン用の野菜を育てる等、多くの取組をされており興味深く聞かせて頂きました。



野生動物保護センター見学

この日は、引き続き「BCT ジャパン」の岸さんと共に、保護された野生動物の保護センターへ。プランテーション農園の開発により、生活の場を奪われたオランウータンやボルネオ象は、餌を求めてパームオイルの農園を荒らすことがあります。農園主は、罠や毒で対策をしていますが、結果として傷ついた状態や、孤児の状態で見られる野生動物が急増しているそうです。「BCT ジャパン」が保護した野生動物も保護されており、職員の方の案内のもと、ボルネオに生息する象やオラン・ウータン、テナガザル、鹿などの生態や現状について学びました。

ボルネオ象は、世界で約 1200 頭しか生息しておらず、IUCN のレッドリストに掲載される絶滅危惧種ですが、農園周辺では畑を荒らす害獣とみなされているそうです。ECO を謳う植物性洗剤の原料の為に、象の棲家が奪われているのが現在のボルネオ島の現状です。



[罠により鼻を失った象]



[孤児の状態で見られた拒食症の象]



8月21日(日) 無事帰着

コタキナバル発 20:00 の飛行機で、クアラランプールを経由し、朝 7:30 に関西空港に到着しました。無事大過なく帰着する事が出来ました。

初めての海外旅行となった生徒が 5 名中 3 名、決して楽な行程ではなかったですが、皆が口をそろえて「来年も行きたい」という充実した研修になりました。今回の研修内容については、今年度 10 月 27 日(木)に本校で実施される SGH 課題研究中間発表会において、報告する予定です。また、今後も事後研修として、「ボルネオの為に私たちに何ができるか?」を考え、実行していく予定です。